



幼

小

接

続

編



このリーフレットでは、幼児・乳児・園児などのすべてを総称して、「子ども」と表しています。また、「幼小接続」等の「幼」は幼稚園でなく、「幼児教育」を表し、幼児教育を行う施設として「幼児教育施設」と表記しています。

## 幼小接続とは

幼児教育と小学校教育の接続を見通した教育課程の計画・実施のことです。

### 幼児教育

遊び（学びの芽生え）



知識・技能

思考力・判断力・表現力等

学びに向かう力、人間性等

※幼児教育では資質・能力の基礎を育成

幼児期の終わりまでに育ってほしい姿（10の姿）

### 小学校教育

学習（自覚的な学び）

国語 算数 生活

道徳 体育 特別活動

音楽 図画工作



幼児教育が小学校以降の生活や学習（自覚的な学び）の基盤の育成につながることに配慮し、（乳）幼児期にふさわしい生活を通して、創造的な思考や主体的な生活態度などの基礎を培うようにすることが重要です。

また、幼児教育に関わる教員が、幼児教育施設で育まれた資質・能力を踏まえ、小学校以降の教育活動の充実へとつながるよう、「架け橋期」（義務教育開始前後の5歳児から小学校1年生の2年間）について、小学校の教員との意見交換や合同の研究の機会などを設け、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を共有するなど連携を図り、幼児教育と小学校教育との円滑な接続を図ることも大切です。



## 接続を進めるために“つながり”をつくる

### “縦のつながり”

幼児教育施設と小学校との“縦”のつながり

### “横のつながり”

公立、私立を問わず、すべての幼児教育施設どうしの“横”のつながり

### “つながり”をつくる8つのキーワード

- ①「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」などを用いて対話
- ②教科書を用いた交流
- ③合同研修
- ④カリキュラム作成
- ⑤保育の可視化
- ⑥公開保育
- ⑦公開授業

### ⑧子ども理解の相互理解



立場を越えて子どもについて語り合う「つながり」づくり

# 幼小接続に向けた取組み

「幼児教育アドバイザーがつながる会議」で取り組んだ事例を基に紹介します。

※「幼児教育アドバイザーがつながる会議」とは、幼児教育アドバイザーが市町村の枠を越えてつながり、協働して課題に取り組みながら資質向上をめざす会議です。

アイデア!

## 園内研修の充実（横のつながり）

地域に保育を公開し、より良い保育について学び合い、自園所の保育に取り入れる。そして、各園所で質の高い保育が行われることで、子どもの体験が充実し、経験豊かな子どもが育まれる。

### 具体的な取組み方法

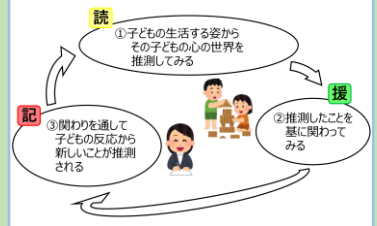
- 1 地域の幼児教育施設に公開保育についてお知らせし、参観者を募る。
- 2 保育終了後の振り返りや協議会で、公開保育について話し合う。

(例)

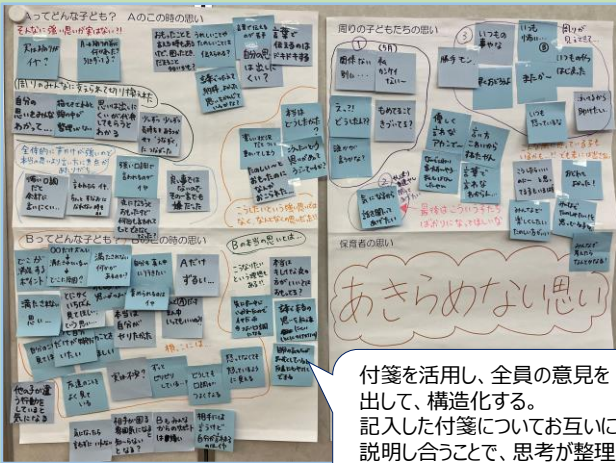
- ・保育の中の一場面から、どんな子どもの育ちが見取れるかを話し合う。
- ・ドキュメンテーションを用いて保育を可視化し、「子ども理解」について話し合う。
- ・子どもの育ちを「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」で捉えなおす。
- ・子どもの行動記録と公開保育から、「子ども理解」について担任の思いを大切にしながら話し合う。
- ・付箋を用いて、全員が参加しやすく、効率的な話し合いにする。
- ・ICT機器を活用し、保育の映像を確認できるようにして、話し合いに参加しやすい環境を整えたり、保育を客観的に捉えたりする。

- 3 公開保育や園内研修で感じたこと、学んだことを、自園所の保育にアレンジして取り入れる。

### 子どもを理解するためのサイクル



### 園内研修の工夫



付箋を活用し、全員の意見を出して、構造化する。記入した付箋についてお互いに説明し合うことで、思考が整理でき、考えが深まる。

### どう？わたしのおやま



砂場にお山を見て、「もったいなくお山を作りたい」と夢中になってお山を作っていました。完成したお山を見て、大満足な様子でした。

### 幼児期の終わりまでに育ってほしい姿

健康な心と体	自立心	協同性	遊戯性・規範意識の芽生え	社会生活との関わり
思考力の芽生え	自然との関わり・生命尊重	数量や図形、種別や文字などへの関心・感覚	言葉による伝え合い	豊かな感性と表現

・どのような育ちが見取れるかを話し合う。  
・子どもの育ちを「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」で捉えなおす。

保育の一場面から、育ちを見取る。撮影しておいた写真から、ドキュメンテーションを協働して作成するのもgood!

### さらに発展!

小学校の生活科等の教科書を活用し、幼児期の遊びが、どのように小学校での学びにつながるのかを学ぶ。

文部科学省（生活科のイメージ（たたき台））

[https://www.mext.go.jp/b\\_menu/shingi/chukyo/chukyo3/064/siryo/\\_icsFiles/afieldfile/2016/08/10/1374187\\_2.pdf](https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo3/064/siryo/_icsFiles/afieldfile/2016/08/10/1374187_2.pdf)



### これがポイント!

- ・担当者間での情報交換から始める!
  - ・見学し合えるつながりを作る!
  - ・特別な準備は控えて、日常の保育を公開し、公開頻度をUP!
  - ・公立、私立を問わず、地域の子どもを一緒に育てる感覚で!
- 【質の高い保育で子どもの**経験**が豊かに!】



遊びがどのように学びにつながるか



### キーワード

②教科書を用いた交流 ⑤保育の可視化 ⑥公開保育 ⑧子ども理解の相互理解



# 園内研修の充実（縦のつながり）

近隣の小学校や所属市町村の小学校の生活科等の研究部会に公開保育、園内研修への参加を呼びかけ、幼児教育の遊びと小学校教育の学びについて相互理解を図る。

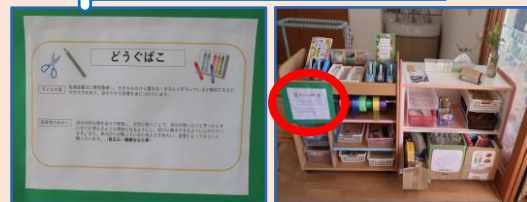
事前に保育の見方を伝えることが大切！



## 具体的な取組み方法

- 1 近隣の小学校や所属市町村の小学校の生活科等の研究部会に公開保育についてお知らせし、参観者を募る。
- 2 参観前に、保育の「参観シート」を配付し、保育の「ねらい」及び環境構成の意図や工夫を伝える。
- 3 保育終了後の振り返りや協議会で、公開保育について話し合う。

こんな工夫もGOOD！  
環境構成の意図を書いて掲示し、参観者に伝えている。



(例)

- ・幼小接続の観点から「いいね」と思った場面を付箋に書き出し、発表する。
- ・育てたい資質・能力の「3つの柱」に「いいね」を分類し、議論を深める。
- ・コンテンツベース（内容）ではなく、コンピテンシーベース（資質・能力）で話し合う。
- ・「幼児教育の終わりまでに育ってほしい姿」を参考に小学校教員と話し合う。



いいね！  
♡

考えてみよう！

- ・遊びからどんな資質・能力が育っているかな？
- ・幼小で連続して育てていくためには、それぞれがどんな取組みができるかな？

## これがポイント！

- ・公開保育、園内研修に市町村の幼児教育担当者と共に積極的に小学校教員を誘う！
- ・幼児教育と小学校教育の良いところを認め合う！
- ・どのような子どもの姿をめざすのかについて共有する！
- ・保育の質、教育の質をそれぞれが高められる合同研修！

【合同研修には**互恵性**がMUST！】

付箋や思考ツールを使って、効果的な話し合いにしよう！



## キーワード

- ①「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を用いた対話
- ③合同研修
- ⑤保育の可視化
- ⑥公開保育
- ⑧子ども理解の相互理解

小学校教員が参加しやすい時間に、公開保育や園内研修を設定してくれると助かります！



参加のハードルを下げる

- ・少人数の参加OK
- ・園内研修からの参加OK
- 参加しやすい工夫をしてくれると嬉しいです！

アイディア3

# 「子どものめざす姿」でつくる交流会

幼小それぞれの子どものめざす姿を共有し、ねらいを明確にした交流会を指導計画の中に設定する。

## 具体的な取組み方法

- 1 計画の中で、小学校との交流を位置付けると効果的と思われる場面を考える。
- 2 近隣小学校へ連絡し、交流について話し合う。  
(話し合う観点)
  - ・幼小それぞれの計画でどのような姿をめざすのか。
  - ・幼小それぞれのめざす姿に近づくために、どのような交流が効果的か。
  - ・交流の前後は、どのように単元、保育をすすめるのか。
- 3 計画を進めながら、子どもたちの状況に合わせて柔軟に計画を変更していく。
- 4 交流会を実施する。
- 5 交流会終了後、幼小の教員と一緒に振り返りを行う。

保育計画  
めざす姿



幼小それぞれのめざす姿により近づくことができるように交流を設定する。



## これがポイント！

- ・共通の言葉「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」に立ち返って議論する！
- ・相互のねらいを大切にするために、短時間で、何度も話し合う！
- ・対面だけでなく、オンラインでも打ち合わせを行い、時間を有効に使う！

【まずは幼小の**教員**がつながる】

子どもを支える  
パートナー



状況に応じて、オンラインでの打ち合わせを行うなど、持続可能な取組み方を考えよう！

## キーワード

- ①「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を用いた対話
- ④カリキュラム作成
- ⑧子ども理解の相互理解



# 小学校に行ってみよう

小学校とお互いの状況を伝えあい、幼児教育施設からも、小学校の授業を見に行ってみよう。



近隣の小学校に授業見学に行き、小学校での学びを知る。

## これがポイント！

- ・小学校の教育を幼児教育が前倒しで行うのではない。幼児期は豊かな遊びの体験が大切！
- ・遊びと学びのつながりを探す！

【小学校の**学び**を知る！】

## 具体的な取り組み方法

- 1 近隣の小学校へ連絡し、研究授業について情報交換をする。
- 2 授業を見学し、振り返りや協議会に参加する。  
(授業を見る観点)
  - ・小学校の学びについて
  - ・幼児期の体験がどのように活かされているか
- 3 小学校の授業で気づいたことを、園所で広める。

## キーワード

- ⑦公開授業
- ⑧子ども理解の相互理解

## 幼小接続を進めるための第1歩として

管理職や幼児教育アドバイザーが中心になって、近隣の小学校へ連絡する。

園所の所在市町村の幼児教育担当者に協力を依頼する。

5歳児担任が小学校1年生担任へ連絡する。ただし、担任だけに任せない。

幼・小それぞれが接続担当を設け、組織的に継続した取り組みができるようにする。

## 大切！

架け橋期の子どもの豊かな育ちを支えるためには、幼小の教員どうしのつながりが大切。そのために、小学校に積極的にアプローチし続ける。

## 幼小合同園内研修に参加した小学校の教員の感想

高度なゲームに取り組み、作戦等も自分たちで話し合っていたことに驚いた。小学校に入学すると年少者として逆行しているように感じる。そのギャップをなくすことが課題と改めて感じた。

子どもどうして話し合いながら遊んでいる姿が心に残った。

5歳児の姿をより多くの小学校教員が見ることが、まずは必要だと感じた。

## 大切！

子どもの姿を通して話し合うことで、幼小それぞれに学びがある！

自分のことだけでなく、相手(友だち)を意識した活動や保育を普段からされているのだと感じた。

## 参考資料

・幼児期の終わりまでに育ってほしい姿（10の姿）  
[https://www.mext.go.jp/content/1422303\\_08.pdf](https://www.mext.go.jp/content/1422303_08.pdf)



・資質・能力の3つの柱に沿った、幼児教育において育みたい資質・能力の整理イメージ（文部科学省）



・幼児教リーフレットの 子ども理解編（大阪府教育センター）  
[https://www.osaka-c.ed.jp/oyk-c/information/leaflet/pdf/r03\\_leaflet\\_kodomo.pdf](https://www.osaka-c.ed.jp/oyk-c/information/leaflet/pdf/r03_leaflet_kodomo.pdf)



[https://www.mext.go.jp/b\\_menu/shingi/chukyo/chukyo3/057/siryo/attach/\\_icsFiles/afieldfile/2016/06/29/1373429\\_01.pdf](https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo3/057/siryo/attach/_icsFiles/afieldfile/2016/06/29/1373429_01.pdf)

・幼小接続に関わる要領指針関係箇所（二次元コードから参照できます）

幼稚園教育要領 P7

幼保連携型認定こども園教育・保育要領 P15



保育所保育指針 P49

小学校学習指導要領 P21



## 大阪府教育センターの カリナビが利用できます！

### カリキュラムNAVIプラザ（カリナビ）

幼稚園新規採用教員研修・幼稚園10年経験者研修の園内研修の指導案を置いています。また、制作・リズム遊び・楽器遊び・運動会に向けて等、様々な活動内容の資料が見られます。

### 大阪府幼児教育センター

〒558-0011

大阪市住吉区苅田4丁目13番23号  
(大阪府教育センター内)

TEL 06-6692-1882 (代表)

FAX 06-6692-1923

URL <https://www.osaka-c.ed.jp/oyk-c/index.html>